

So good!

創宮

- 高齢者が元気なまち
- 富士宮市は静岡ジェードを応援しています
- 富士宮市の被災地支援
- 吟詠家・尺八演奏家 前田健志さん

So good! vol.41



ふじさんシニアクラブ富士宮の女性部の皆さんが、「難しいけど挑戦する!」を合言葉に、編みぐるみの制作に挑みました。講師の先生に教わりながら、仲間同士で和気あいあいと2024年の干支「辰」を作りました。



高齢者が元気なまち

～自分らしく生き生きと～

富士宮市では、意欲的に仕事や趣味の活動に取り組み、自分らしく、生き生きと、元気に活躍する高齢者がたくさんいます。

今回は、高齢者が生きがいや仲間づくりのため元気に活動する「ふじさんシニアクラブ富士宮」と、高齢者が貴重な戦力として活躍する企業を紹介します。

ふじさんシニアクラブ富士宮(FSC)

☎ 社会福祉協議会 総務係 ☎22-0294

シニアクラブは、概ね60歳以上の高齢者が地域で自主的に集まって活動する団体で、市内には45のクラブ、1,863人の会員がいます。

クラブでは、社会奉仕をはじめ、輪投げやグランドゴルフなどの健康づくり、カラオケや手芸などの生きがいづくり、子どもたちとの交流など、地域を豊かにする活動を行っています。



FSCで仲間をつくりませんか。入会をお待ちしています！



仲田育美副会長

(小泉3区シニアクラブ睦美会)

少子高齢化が加速する中、「一人にさせない！」という思いで、多くの仲間の加入を目指して頑張っています。



佐野ひろみ副会長

(シニアクラブ舟久保)

女性部の活動で、お友達の輪が広がり、みんなで元気に楽しく生き生きと活動しています。

地域の笑顔のために



▲シニアクラブ淀橋では、沿道の花壇にお花を植え、まちを明るくしています。



▲育成部では、夏休み期間に、放課後児童クラブを対象に「ほかほか食堂」を企画。こどもたちに、カレーとポテトフライをふるまいました。



▲総務部では、地域子育て支援センター「たち」と交流。小さいこどもやママたちと一緒に、歌や手遊び、紙芝居などで楽しみました。

皆で楽しく健康づくり



▲第50回ふじさんシニアクラブ富士宮スポーツ祭り「輪投げ大会」では、485人が参加し熱戦を繰り広げました。



▲第11回シニアクラブ静岡県輪投げ大会で準優勝！県内40チーム240人が参加しました。



▲令和5年度高齢者いきいき創造広場が磐田市民文化会館で開催されました。FSC富士宮から総勢60人が参加し、ダンスで会場を沸かせました。

高齢者が活躍する企業

井上機工(株)の取り組み

空調機器の部品などを製造する富士宮市杉田の井上機工(株)が、厚生労働省とJEED(独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構)が共催で実施した「高齢者活躍企業コンテスト」で、厚生労働大臣表彰優秀賞を受賞しました。



受賞のポイント

- 高齢者の豊富な経験や高い技術を最大限に活用し、コスト削減、納期の短縮、生産性の向上につなげている。
- 通院や介護など、個別事情を抱える高齢社員のニーズに合わせて、勤務時間や勤務日の調整が可能である。
- 会社への貢献度や技術の保有状況に応じて給与を決定し、高齢社員のモチベーションアップにつなげている。
- 高齢社員が持つ高い技術を、若手社員に伝承し育成を行っている。

企業の声

60歳以上の社員の比率が34%と、多くの高齢社員が各職場で活躍しています。

高齢社員が安全に、より長く働き続けられるよう、空調設備や照明の改修、広い通路の確保、階段への手すり・滑り止めの設置など、会社の設備も改善しました。

これからも、地域に必要とされる会社を目指して取り組んでまいります。



高齢社員の声



ぶんいち
吉野文一さん(83歳)
最高齢社員

採用されて5年が経ちました。83歳という高齢にもかかわらず、働く場所があることに感謝しています。



まわる
小池衛さん(81歳)

出勤することで規則正しい生活ができます。若者と交流ができ、気持ちも若くいられます。

今 卓球が熱い!

富士宮市は 静岡ジェード を 応援しています



▲ノジマリーグ公式戦 岡山リベッツとの試合後の勝利チームインタビュー

静岡を拠点に活動するTリーグチーム 「静岡ジェード」

静岡市の中山間地域である奥静岡、通称「オクシズ」に拠点を置き、「卓球で静岡を活性化しよう」をスローガンに掲げ活動する静岡県内唯一の男子卓球セミプロチーム「静岡ジェード」が令和4年12月に誕生しました。今シーズンから、セミプロリーグ「ノジマリーグ」への参戦を果たし、熾烈なリーグ戦を戦っています。

選手紹介



もりぞの まさたか
森園 政崇(28)監督兼任



りゅうどき とんいん
龍崎 東寅(25)



まつした たいせい
松下 大星(27)



よこたに じょう
横谷 晟(21)



まつやま ゆうき
松山 祐季(25)



こにし かい
小西 海偉(42)



み き はやと
三木 隼(17)



さかい ゆうひ
坂井 雄飛(17)



てつか りょうま
手塚 駿馬(21)



さんべ こうへい
三部 航平(26)



ふくみつ りょうた
福光 凌大(17)

ホームタウンパートナーシップに関する協定 締結

令和5年11月27日、富士宮市は、静岡ジェードの運営会社である「静岡オクシズUU(ユーユー)株式会社」と、卓球を通じたスポーツ振興の連携強化、地域活性化、地方創生の推進のために協定を締結しました。

卓球講習会や「ノジマTリーグ」公式戦の開催など、卓球で富士宮市を盛り上げます。

森園監督兼選手の言葉

卓球を通じて、市民の皆さんの健康促進、卓球選手の強化など、富士宮市と連携していろいろな取り組みを進めていきたいと思っています。



▲協定書を交わす森園監督兼選手と須藤市長

卓球で富士宮市を活性化

静岡ジェードは、卓球の試合を披露するだけでなく、「卓球で地域社会を幸せにする」という思いで活動しています。

卓球講習会

令和5年10月1日、森園監督兼選手と龍崎選手を講師に、卓球講習会を開催しました。練習方法、打ち方のコツなど、レベルに合わせたプロの指導に、参加者は技術を少しでも自分のものにしようと、目を輝かせていました。



▲参加者からの質問にも熱が入ります。



▲選手たちが実践を交え、丁寧に教えてくれます。

シズガスカップ

静岡ジェードオープン卓球大会

令和5年12月9日、市民体育館で静岡ガスグループ特別協賛で開催されました。市内外から参加した多くの方が、男女それぞれ初級・中級・上級の3つのグループに分かれ、白熱した試合が繰り広げられました。

試合の合間には、ジェード選手とのラリー体験や記念撮影、ジャンケン大会、ガス管倒しなどのゲームも行われました。



▲約600人が参加しました。



▲選手との記念撮影

ノジマTリーグ公式戦

令和5年12月23日・24日、市民体育館で、ノジマTリーグ公式戦が開催されました。

初日は、木下マイスター東京と対戦し、2日目は、岡山リベッツと対戦しました。

広い体育館の中央に1台だけ置かれた卓球台で繰り広げられる熱い戦いを、観客は、食い入るように見つめ、得点が決まるたびに、大きな歓声を上げていました。



▲対 木下マイスター東京でダブルスに出場する森園監督兼選手と龍崎選手



▲対 岡山リベッツでシングルスに出場する森園監督兼選手

令和6年能登半島地震 富士宮市の被災地支援

令和6年1月1日、午後4時10分に石川県能登地方を震源とする最大震度7を記録する地震が発生しました。富士宮市では、直ちに支援体制を整え、同日午後9時50分には、緊急消防援助隊第1陣が被災地へ出発しました。その後もさまざまな業務を支援するため、2月末までに延べ60人以上の職員を派遣してきました。

大災害からの復旧には、長い年月を要します。今後も、被災地に寄り添った支援をしていきます。



▲1月2日午前9時、長谷川危機管理監から、富士宮市内の被害の有無と、被災地の被害状況の説明を受ける須藤市長と諏訪部市議会議長

緊急消防援助隊

(珠洲市)

1月1日～1月21日 延べ42人

消防庁からの要請を受け出動。要救助者の検索、救助活動、消火活動、救命資機材の運搬、救急活動などを行いました。



▲地元職員と検索場所を確認



▲倒壊した家屋からの住人の救出活動



▲災害救助犬と要救助者を検索

給水支援

(七尾市ほか)

1月4日～ 延べ6人

給水車で飲料水を配布する応急給水活動を実施しました。



▲七尾市の避難所(中島小学校)での給水支援

応急危険度判定

(穴水町)

1月11日～1月19日 延べ4人

被災地の建築物を調査し、余震などによる倒壊、外壁の落下などの危険度を判定しました。



▲建物の被害状況から、二次災害発生の危険度を判定し、表示

下水道管路被害調査

(中能登町)

1月8日～1月12日 1人

下水道管路に異常がないか調査を行いました。



▲マンホールの蓋を開けて内部を確認

避難所支援

(穴水町)

1月19日～ 延べ4人

各種物資の受領及び発注、避難所の要望のとりまとめなどを行いました。



▲避難所に納入された物資などを整理

災害派遣医療チーム/DMAT (珠洲市ほか)

1月8日～1月14日 4人

医師、看護師、技師で構成した医療チーム。金沢市の避難所に移動する要介護者の診療やケア、搬送調整を行いました。



▲要介護者を移送するDMATの医師たち

災害支援ナース

(輪島市ほか)

1月11日～ 延べ3人

被災者が健康を維持できるよう、感染症予防や日常生活のケアを行いました。



▲体調不良者の確認、救護所の設置、洗髪や足浴の介助などを行う。

義援金を 受け付けています



義援金は、日本赤十字社を通じて被災地の生活支援に役立てられます。



市役所1階 福祉企画課

地震に備えよう

いざというときに備え、まずは家庭で、防災の基本である自分の身は自分で守る「自助」について話し合い、準備を進めましょう。

- ◆ 集合場所、避難所、連絡方法など、家族のルールを決める。
- ◆ 建物の耐震化、家具の転倒防止、窓ガラスに飛散防止フィルムを貼るなどの地震対策をする。
- ◆ 非常持出品や、水、食料品、災害用簡易トイレなどの備蓄品をそろえる。
- ◆ 地域の防災訓練に参加する。



詳しくはこちら



日本の伝統芸能を世界に

吟詠家・尺八演奏家 前田 健志さん

詩吟(吟詠)は、漢字が中国から日本に伝わった奈良時代、漢詩に節(リズム)を付けて詠む朗詠が盛んに行われ、江戸時代後期に現在の形になりました。前田さんは、3歳の時に、岳心流富士宮愛吟國風会の村松勢心先生に師事する祖母の影響で詩吟の世界に入り、初舞台の日本コロムビア吟詠音楽祭静岡大会で、「富士山」を独吟しました。

また、9歳の時に、琴古流尺八竹友社の佐野尚芳先生に師事し、尺八を始めました。その後、和洋折衷バンド「暁-AKATSUKI-」を結成し、ソロ活動と並行して活躍の場を広げています。令和6年2月3日には、富士宮市民文化会館大ホールにおいて凱旋公演を行いました。



詩吟や尺八への思い

「小さい頃は、詩吟の言葉の意味も分からずに詠んでいたが、日本語の奥深さや美しさを知り、声に感情を乗せることで、時空を超えて観客の皆さんをその情景の中に引き込みたいと思うようになった。また、尺八は、季節や天候、顎の角度などでも音色が変わる非常に繊細な楽器。まさに、日本そのものを表すような奥深さがある。同世代の尺八演奏家が少ないので、もっと尺八の魅力を知ってもらいたい」と熱く語ってくれました。

これからのビジョン

高校生の時、アメリカに語学留学をした前田さんは、現地で披露した尺八の演奏が大変盛り上がり、音楽は国境を越えることを実感したそうです。

海外イベントにも参加する前田さんは、「今後は、日本の子どもたちや海外の人たちにも、詩吟を通して日本語の美しさ、そして、和楽器の美しい響きを知ってもらうために、積極的に発信をしていきたい」と語ってくれました。

プロフィール

平成13年生まれ(23歳) 大宮小、富士宮第二中学校、沼津学園桐陽高校、上智大学卒業

好きな食べ物は、おはぎとラーメン。趣味は、旅行や神社仏閣巡り。休日は、ドライブや電車で気の向いたところに出かけます。



華々しい経歴

- ★8歳 日本コロムビア吟詠コンクール東海大会優勝
- ★12歳 NHK Eテレ にっぽんの芸能出演
- ★15歳 SBS今聞きたい静岡の100人に選出
尺八で琴古流師範の免状をもらう
- ★19歳 日本コロムビア吟詠音楽会10周年功労賞 表彰
- ★20歳 和洋折衷バンド「暁-AKATSUKI-」結成
横浜クルーズ船マリナーージュ号にて土屋アンナさんと共演
- ★21歳 吟詠岳心流師範の免状をもらう
- ★22歳 暁-AKATSUKI-
東京タワーClub333
3か月連続ライブ
- ★23歳 暁-AKATSUKI-
1stアルバムCD発売